様式1

令和５年度　学校評価表

学校教育目標	感性豊かに　しなやかに　たくましく生き抜く人間の育成　～未来を拓く基盤をつくる～

a　ミッション	「オール浦崎」で取り組む　キャリア教育の充実による　主体的な学びの実現	a　ビジョン	生徒が自信と誇りを持って活動し、地域や保護者から信頼される学校をつくる

尾道市立浦崎中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
夢と志を抱き　グローバル社会を生き抜く児童・生徒の育成	主体性を持ち、知・徳・体の調和とれた児童・生徒を育成する	主体的に学ぶ力の育成	基礎的・基本的学力の定着を図り、児童・生徒が自ら課題解決する力を育成する【主体的に学ぶ力】 ・学習ドリルの積み上げ ・探究的な学習の創造	・自ら学習に取り組んでいるという生徒の割合（昨年度：70%） ・総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、活動に取り組んでいるという生徒の割合（昨年度：76%） ・教職員が教科と総合的な学習の時間の横断的な学びで、基礎学力の定着と向上を図っている割合 ・3年生定期試験の５教科の合計点150点以下の割合 ・１、２年生標準学力調査の割合	75% 80% 75% 3割以下 全国比＋2P	75% 86.4% 55.5% 6.7% -6.6P		100% 108% 74% (100%) (0%)	A A C (100%) (0%)	自分で勉強の計画を立て、自ら進んで勉強している生徒は11ポイント、総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことなどを発表する学習活動に取り組んでいる生徒は10.4ポイント上昇した。また、3年生定期試験の５教科の合計点150点以下の生徒は6.7%しかいなかった反面、１、２年生標準学力調査は平均して全国より6.6ポイント下回った。全校での総合的な学習の時間では、G.Ｔを招聘して地域貢献についての課題意識を持たせ、それを基に課題解決学習に取り組ませたことで、主体的な学びにつなぐことができた。しかし、基礎学力の向上に向けて、教科と総合的な学習の時間の学びが相互に活用できるよう横断的な学びを取り入れた授業改善に取り組めている教員は半数ほどで、さらなる授業改善が必要である。	8			・定期テストではおおむね学力の定着が見られたということであったが、今は学力調査においても文章題が多く、解き方が複雑になっている。そういった応用力に欠けている子供たちが非常に多いように思う。しっかりと応用力も鍛えて欲しい。	○定期テストでは、基礎的・基本的学力の定着がおおむね見られたが、標準学力調査では全国平均に達していない。また、SHRで学習ドリルに取り組ませ、主体的な家庭学習の充実を図ったが、学習ドリルをやりきることができず提出しない生徒が１割近くいる。個々の学習定着の状況や家庭学習の状況を丁寧に把握し、困り感のある生徒に個別の学習支援や家庭学習の指導を丁寧に行っていく。 ○全校での総合的な学習の時間では、個々に考えグループで設定した課題の解決を通して、学びが広がるような指導を工夫するとともに、各教科での学習を総合的な学習の時間での学びにつなげる視点を取り入れながら、授業改善に取り組んでいく。
			授業改善を通して思考力・表現力の育成を図る【思考力・表現力】 ・対話的な学び ・表現活動の充実 ・振り返りの活用	・授業では、情報を比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見つけたり（関係づけ）して、課題に取り組めているという生徒の割合（昨年度：68%） ・授業で、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しているという生徒の割合（昨年度：70%） ・生徒の振り返りを基に生徒の主体的な学びの実現を図る教職員の割合	75% 80% 75%	84.1% 84.1% 55.5%		112% 105% 74%	A A C	授業で比較・分類・関係づけをしたりして、何が分かるのかが考えている生徒は16.1ポイント、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝わるように発表を工夫してる生徒は14.1ポイント上昇した。新型コロナウィルス感染症の法的位置づけの変更によってグループ活動が充実できていることや全校縦割りでの総合的な学習の時間を少人数グループで行うことにより、生徒が自分の考えを伝える機会が増え、理由を明らかにしてわかりやすく伝えるための発表の工夫を指導している成果が現れている。しかし、生徒の振り返りを充実させ、主体的な学びが実現するよう工夫・改善を図っている教員は半数ほどで、さらなる授業改善が必要である。	8			・従来は公式を覚えこませたり、暗記をさせたりが主流の授業スタイルであったが、今は自分なりの考えを持たせて課題を解決していき、思考を止めない授業を展開していることに感銘を受けた。今後も引き続き、学び方を自分で考え、個人に応じた学びを展開してもらえることを期待する。	○特に１年生は、学びのツールを活用した思考や理由を示した表現に全員が肯定的な回答であり、２・３年生も昨年より肯定的な割合が増えている。学びのツールの活用についてさらに研修を深め、それを取り入れた授業改善を通して、思考力や表現力を高めていく。 ○振り返り活動の内容や評価法等を校内で交流し、生徒の主体的な学びが深まるよう、振り返り活動の工夫・改善を図っていく。また、授業のまとめと振り返りの違いを意識させ、生活や他教科・既習事項とのつながりと関連させたり、自分の課題やその解決法・自分の変容について書いたりできるよう指導していく。
		自己肯定感の向上	前向きに取り組むことができる自己コントロール力をつける【かかわる力】 ・自治活動	・自己肯定感に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合（昨年度：78%） ・集団の中で安心して生活できるという生徒の割合（昨年度：94%） ・仲間と共に自治活動をやりきることができたと肯定的に答えている生徒の割合 ・生徒の協働した自治活動を支援し、達成感をもった教職員の割合	80% 100% 80% 100%	85.6% 77.3% 93.2% 88.9%		107% 77.3% 116.5% 88.9%	A C A B	「自己肯定感に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合」は、目標達成し、昨年度より7.6ポイント上昇した。「集団の中で安心して生活できるという生徒の割合」は、目標達できず、昨年度より、22.7ポイント減少した。この減少については大きく受け止め、改善に向け、学級や学校全体で生徒をしっかりと見ていき安心安全な学校の実現を図っていく。担任が個別に面談することも必要に応じて実施したい。「仲間と共に自治活動をやりきることができたと肯定的に答えている生徒の割合」は、目標を大きく達成することができた。「生徒の協働した自治活動を支援し、達成感をもった教職員の割合」は、目標達成できなかった。	8			・時代が違うのかも知れないが、生徒が悪いことをしたときには、厳しく大声で叱ることも大切である。最近はすぐに体罰などと言われるが、そういった部分が心に響いてくるのだとも思う。 ・他校から転校してきた生徒で、よく遅刻をしながら登校しているところを目にするが、前の学校ではほとんど学校に行っていなく、今は毎日遅刻をしながらでも登校しているということで大変良いと思った。個々で状況は違うが、そういった所からも自己肯定感が高まっていることが伺える。	○集団の中で安心して生活できるという生徒の割合を増やすためにアセス等のデータを有効に活用し、担任や副担任で面談を実施していく。その中で生徒の悩みや不安をしっかりと傾聴し、改善に向けて学校全体で取り組んでいく。 ○生徒の協働した自治活動を支援し、達成感をもった教職員の割合については、比較的高い水準ではあるが、目標は達成できていないため、教職員の意識を高めるよう呼びかけていく。
			特別活動や行事、園小中連携、地域の人との関わりを通して、互いに関わり合う集団・個人を育てる【かかわる力】 ・地域の力と協働した授業	・地域貢献に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合（昨年度：71%） ・こども園や小学校の児童と関わることで新たな学びに気付きがあった生徒の割合 ・ゲストティーチャーを招き、地域と関わり合いながら授業を行った回数	80% 80% 年間10回	81.1% 65.9% 学期5回		101% 82.3% 50%	A B C	「地域貢献に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合」は、目標達成し、昨年度より、10.1ポイント上昇した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、地域の行事などが復活したことも要因の１つであると考える。「こども園や小学校の児童と関わることで新たな学びに気付きがあった生徒の割合」は目標達成できなかった。関わるだけにとどまらず、学びにつながる関わり方の工夫が必要である。「ゲストティーチャーを招き、地域と関わり合いながら授業を行った回数」は、１学期間に5回呼ぶことができた。そのため、年間１０回は達成できる見通しである。	8			・ある中学生が目があったが、そのまま通り過ぎて、その後戻ってきたことがあった。そして、挨拶を忘れていたのでと言って、わざわざ挨拶をしてくれたことがあった。相手の気持ちを汲み取り、挨拶をしてくれたことに感銘を受けた。そういった生徒を今度も育てて欲しい。	○こども園や小学校の児童と関わることで新たな学びに気付きがあった生徒の割合については、目標達成できなかった。行事が復活したことにより、関わる機会が増えたことは間違いない。けれども、ただ関わるだけにとどまっていることが考えられる。今後は、どのように関わるか、何を目標にするのかを事前に考えさせて、行事に参加させていきたい。また、振り返りなどでも学びを意識させる振り返りシートを作り、活用していきたい。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。